

鳥取県立米子東高等学校定時制課程									
中長期目標				今年度の 重点目標		1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進			
年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月					
評価項目	評価の具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策		経 過 ・ 達 成 状 況		評 価	改 善 方 策
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケートの最上位項目が「わかりやすい」 7 6 % 「先生の熱意を感じる」 7 8 % ○授業の自己評価5段階評価で4以上 7 9 % ○教材が工夫されていてわかりやすい 7 6 %	○わかる授業を推進 授業評価アンケートの最上位項目が「わかりやすい」 8 0 %以上 「先生の熱意を感じる」 8 0 %以上 ○授業の自己評価で4以上8 0 %以上 ○I C Tを効果的に活用 8 0 %以上	○授業公開および授業評価アンケートを活用した授業改善 7月授業評価アンケートの結果、最上位項目が「わかりやすい」 6 2 % 「先生の熱意を感じる」 6 4 % ○授業の自己評価で4以上7 2 % ○I C Tを効果的に活用 5 3 % ○授業公開を実施 ○Chromebookの環境整備、授業で使う機会が増加				C	○7月の授業アンケートの結果を受けて授業改善に努める。 次回は1 2月に授業アンケートを行う。 ○公開授業を継続して実施する、授業担当者はI C Tの活用、生徒の活動、生徒の課題解決のいずれかを意識した授業を行う。 ○I C T支援員の助言を得ながら授業でのChromebook活用に努める。また、授業で使えるアプリの操作について研修する。
	特別支援教育の充実	○S S W、S Cと、定期的にケース会議を行い、関係機関とも連携して生徒支援にあたった。 ○生徒情報交換会、ハイパーQ U研修会を実施するとともに、生徒情報を共有して支援に役立てた。 ○特別支援教育支援員・米東サポーターの配置により、授業サポートを実施した。	○S C、S S Wとの連携 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員・米東サポーターの有効活用	○S C、S S Wと2週間に1回ケース会議を実施 ○生徒情報交換会、ハイパーQ U研修会に加えて教員向け研修を実施 ○特別支援教育支援員の支援活動計画を更新		○S S Wの定期訪問に合わせてケース会議を実施している。必要に応じて、関係機関と連携している。 ○特別支援教育支援員、米東サポーターの授業支援により、生徒の困り感の解消に努めるとともに、情報共有をして生徒理解に役立てている。		B	○必要に応じて、関係機関との連携する。 ○夕礼、終礼を有効に活用して、生徒情報について職員間で共有する。
	進路指導の充実	○令和5年度卒業生は就職5名、進学4名、その他5名であった。 ○学年、進路指導部、C Aで連携して指導を行うことができた。ハローワークと連携した就職指導も効果的であった。 ○進学希望者向け業者テストを延べ3名が受験した。	○就職内定率及び進学決定率1 0 0 % ○C A、ハローワークと連携 ○進学希望者向け業者テストを延べ4名以上受験。	○L H R、進路講演会、個人面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○C Aによる進路指導講話、進路面談の実施 ○生徒・保護者に進路情報を伝達		○進路意識高揚を目標に1・2年次で4回進路L H Rを実施した。また、進路についての講演会を2回実施した。 ○担任・進路指導担当・C Aで連携し、3年次の個人面談ならびに保護者面談を実施した。 ○進学希望者向け業者テストを延べ3名が受験。		B	○全職員で面接練習等を行い、3年生の進路実現を目指す。 ○進学希望者は、早期から業者テスト等で力を伸ばせるように、各教科担当で個別指導を進めていく。
	キャリア教育の充実	○生徒は、キャリア・パスポートに講演会等の振り返りを記録した。記録する内容を深めていく。 ○地元企業・学校見学を通して、生徒自身にキャリアデザインについて考えさせている。	○キャリア・パスポートの有効活用 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートに、講演会・行事の振り返りを記入 ○3年間を通して生徒自身のキャリアデザインを構築		○4月にキャリアパスポート作成についてガイダンスのL H Rを実施した。 ○各種講演会等の振り返りワークシートを作成、ファイリングさせている。		B	○行事の振り返りの記入の点検を行い、記入の仕方について指導する。 ○行事の振り返りに加えて、学期、学年の振り返りを行う。
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○生徒会執行部を中心に大運動会の企画・運営を行い、初めてグラウンドで開催することができた。 ○全国定時制通信制総合体育大会にバレーボール男子、バドミントン女子が出場した。	○生徒会活動や部活動、学校行事での生徒の主体的な取組の推進 ○部活動の推進	○生徒会活動のなかで、リーダーの育成 ○学校行事・部活動において、生徒が主体的に活動する機会を増強 ○学校H Pの更新回数を増やす		○生徒会企画の球技大会は1 0月開催に向けて準備を進めている。 ○定通総体ではバレーボール男子が全国大会へ進み、全国で1勝を果たした。卓球女子個人も全国大会出場を果たした。 ○1学期の学校H P更新1 1回(昨年度1 学期9回)		A	○生徒会の企画する1 0月の球技大会、2月の文化祭を通して、生徒会の生徒のリーダーシップ、参加する生徒の主体性を伸ばしていく。
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○行事を苦手とする生徒もいるが、人との関わりを通して成長できるように進めている。 ○芸術鑑賞や地元の資源体験を通して、郷土への興味と関心を深めることができた。	○体験的な活動による豊かな心の育成 ○地域に根ざした教育活動	○新たな体験活動の充実 ○体験を通して、地域の魅力を伝える		○5月末に「鳥取県芸術鑑賞教室」を利用し、「鳥の劇場」による演劇鑑賞を実施した。 ○7月にアウトドア体験を実施した。大山の自然の中で1、2年生はカヌー体験、3年生は乗馬体験を行った。		B	○地元資源体験では大山散策、ピザづくり体験を予定している。地元の素晴らしさを感じること、級友との絆を深めることを目指す。
	人権感覚豊かな生徒の育成	○生徒向けの人権教育講演会を2回実施した。 ○人権L H Rでの話し合い活動で、他者の様々な意見に触れる機会を持った。	○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○生徒向けの人権教育講演会を2回実施し、加えて教員向けの研修も実施 ○人権L H Rでの話し合い活動を増やす		○車いすバスケットの講演を1 0月、性の多様性についての講演を1月に予定している。 ○性の多様性については1 1月に教員向けの研修を行う。		B	○アンケート結果を受け、「同和問題」の学習の進め方については、不登校で学習機会が少なかったと思われる生徒の実情を踏まえ、学習内容・学習計画について進めていく。
	社会参画できる生徒の育成	○定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○講演の際、人の話を聞く姿勢が向上した。また、講演後の感想もきちんと記入できる生徒が増えてきた。	○社会人としてのマナーを身に付ける ○人の話をきちんと聞いて、自分の意見を考えることができる生徒の育成	○異世代と交流の機会を1年次生徒に設定 ○講演会のときに「きちんと聞いて、きちんと考えて、きちんと書く」ことを指導		○語り人@勝田町は少人数のワークショップ方式で行い、地元で活躍する大人と交流しながら学ぶことができた。 ○講演会を聞く姿勢は良くなっている。		B	○1 1月に保育実習を予定している。実習を通して、色々な世代の方々と関わっていく。 ○講演会の感想の内容が深まるように指導する。
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○問題行動件数2件。生徒指導を徹底し、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。 ○出席することに意識が希薄な生徒がいる。令和5年度は1年間皆勤0名、精勤2名であった。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○1年間皆勤及び精勤5名以上	○挨拶の励行、生徒への日常の声かけの実施 ○安定した生活習慣の継続を指導 ○教職員間の情報交換、保護者との連携		○指導案件0件である。 ○1学期末の皆勤及び精勤は8名である。 ○言葉の認識の相違からトラブルになるケースがあった。 ○生活リズムを崩している生徒が見受けられる。		B	○生徒登校時に校舎入口にて挨拶と観察を行っている。今後も継続していく。 ○終業式、始業式など節目のタイミングで、社会人に向けた意識について伝える。
	家庭との連絡の緊密化	○担任を中心に、こまめな家庭連絡を継続し、無断欠席については、昨年度より減少した。 ○けじめあるスマートフォンの利用ができるよう指導している。	○欠席の多い生徒を減少させる ○保護者の学校理解を促進	○面談・カウンセリングの実施 ○保護者面談の実施、こまめに保護者連絡 ○学校H P等による学校の教育活動の発信		○欠席状況の把握は以前よりはできている。不登校傾向の生徒への対応に苦慮している。 ○欠席の多い生徒が増えてきており、保護者との連携を図っている。 ○学校H Pで、学校行事等の様子を伝えた。		B	○保健部では、健康観察を分析し担任と情報を共有する。 ○職員間の情報共有で、気になる生徒にはカウンセリングを勧めていくとともに、必要なら保護者にも勧めていく。 ○不登校対応として他機関との連携も図っていく。
	〔体〕育、〔食〕育の推進	○生活習慣に関するアンケートを年間3回実施した。 ○「食」の講演会を実施、朝食を食べる生徒が5 0 %から7 0 %に増加した。 ○睡眠が十分でないと感じている生徒の割合4 8 %	○生徒の健康に対する意識の向上 朝食を食べる 7 0 %以上 睡眠が十分である 6 0 %以上	○生活習慣に関するアンケートを年間2回実施 ○「食」の講演会・定時制夜間給食の実施 ○睡眠に関する保健指導・啓発		○4月に生活習慣に関するアンケートを実施した結果朝食を食べる9 0 %、睡眠が十分である4 8 %であった。結果は保健だよりで生徒に周知した。 ○生活習慣についてはH R等で意識を高めている。 ○定時制給食を2人が受けている。		B	○年度末に2回目の生活習慣に関するアンケートを実施する。 ○2学期に、アンケートで出た健康課題についての保健指導を実施する予定である。 ○学校行事で楽しく食事をする機会を持つ。
	よりよい学習環境の整備	○清掃月間を設定して校舎の環境美化に努めた。 ○ゴミの放置が散見されるので、ゴミの持ち帰り・分別を粘り強く指導していく。 ○学習椅子の騒音対策の活動が行われ、学習環境の整備ができた。	○校内環境の整備 ○H Rの時間に生徒と教員で清掃活動	○ゴミの持ち帰り・分別を指導し、ゴミの減量化に繋げる ○清掃活動の継続		○ゴミの持ち帰りが出来ている。 ○清掃月間を設定して美化に努めることができた。		B	○今後も清掃月間を設定し清掃活動を継続していく ○日常でのごみ拾いや掃除をする意識づけをする。
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○学事支援システムの導入により、成績処理にかかる時間を大幅に削減できた。 ○分掌のフォルダ、ファイルの整理を進めて、次年度の業務引継ぎ等に役立てる。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の縮減	○学事支援システムの有効活用 ○分掌内における業務分担の見直し ○分掌内のフォルダ、ファイルの整理		○学事支援システムを日々の出欠管理や成績処理に活用している。		B	○学事システムでは講座、クラスともに「日々入力」を確実に行う。 ○分掌の打合せを適宜行い、分掌内で役割分担して業務を進める。
評価基準 A：十分達成 【100%】				B：概ね達成 【80%程度】		C：変化の兆し 【60%程度】		D：まだ不十分 【40%程度】	
								E：目標・方策の見直し 【30%以下】	